



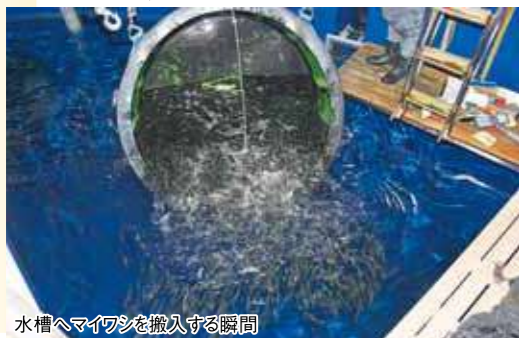
催し物

- 3月9日 第2回平成30年度名古屋港水族館共同研究講演会を開催
講師：三重大学 吉岡基教授 79名参加
- 16・24日 写真展「飼育係が見た野生の姿～羅臼のシャチ・御蔵島のイルカ～」
特別レクチャー「シャチに会いに行こう！
～シャチトレーナー in 知床羅臼～」 計44名参加
- 16日 特別展「寿司ネタ大集合～水族館が斬る！ 寿司のいろいろ～」を開催（～6/2）
- 3月21日 「ペンギンよちよちウオーク2019」開催（～6/30）
- 23日 南極ホール リニューアルオープン
「繁殖賞」を受賞した南極生物4種を展示
- 28日 ウミガメ回遊水槽 リニューアルオープン
- 4月19～21日 4月19日は「しくの日」
特別レクチャー「シャチの飼育員の1日」 計71名参加
- 27日 ゴールデンウィーク期間中は夜8時まで営業（～5/6）
5/3～5は朝8時開館
イルカのナイトパフォーマンス&水中種目など
- 5月27日 臨時開館
子ガメとのふれあい 計216名参加
- 5月12日 「感じて納得！ めざせシャチ博士」 小1～3 16名



生物の出来事

- 3月25日 アドベンチャーワールド(和歌山)とエンペラーペンギンの
プリーディングローン実施(2羽交換)
- 25日 ゴマフアザラン「ナノハ」出産 (赤ちゃんはメス、同日死亡)
- 5月14日 深海生物2種 名古屋港水族館初展示
オオタルマワシ・スミツキハナダイ
- 16日 マイワシ約15,000尾を追加搬入
- 5月17日 名古屋港水族館での人工授精で初めて誕生した
バンドウイルカ「ハル」1歳の誕生日
- 4月13日 改元記念「名古屋港水族館 平成のあゆみ」展を開催（～6/2）
マダイ・イセエビ
- 16日 「鯨の尾ってどんな尾？ 2019～刀の鯨尾とナマズの尾～」を
開催（～6/2） ナマズ



水槽へマイワシを搬入する瞬間



来訪者

- 3月9日 三重大学 吉岡 基 教授
- 13日 三重大学 木村妙子 教授
- 26日 岐阜大学 楠田哲士 准教授
- 4月16日 日本動物園水族館協会 岡田尚憲 事務局長
- 5月5日 長隆海洋王国 Tony Sze 専務

講演・その他の出来事

- 3月12日 「マイワシのトルネード」音響を一新
- 22日 京都市内にて2018年度動物園水族館大学シンポジウム
(主催：京都大学野生動物研究センター)ポスター発表
「名古屋港スナメリプロジェクト」 神田幸司
「飼育下エンペラーペンギンの繁殖期における行動観察」
材津陽介
「名古屋港水族館における屋内施設でのウミガメ類の繁殖」
安藤友佑
- 31日 入館者数が2年連続(2017、2018年度)200万人を突破(当初初)
2017年度の入館者数は歴代4位を記録(2,105,406人)
- 5月28～29日 2019年度日本動物園水族館協会 通常総会開催
(名古屋港水族館は開催館を担当)(125園館201名参加)
- 【講演】
3月17日 静岡市内にて2018年度勇魚会シンポジウム 75名
「名古屋港水族館の進化の海の進化(リニューアル)」 大島由貴
- 5月31日 人間環境大学 環境教育センター(岡崎市)
環境保全セミナー 50名
「海の王者シャチの飼育員という仕事」 大島由貴
- 【職場訪問・館内レクチャー】
8件 259名
- 【職場体験】
1件 4名

スマホサイト
http://www.nagoyaaqua.jp/sp/
(なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります)



さかななか

NEWS LETTER SAKANAKANA SUMMER 2019

Vol.102

表紙生物「アオウミガメ」
Caretta mydas
新しくなった水槽をゆつりと泳ぎまわります。
海草や海藻が主食で、名古屋港水族館では、アオウミガメを好んで食べます。



CONTENTS

- 特集
ウミガメ回遊水槽リニューアルオープン
- 水族館トピックス
- 水族研究最前線 ダーウィンの箱
名古屋港スナメリプロジェクト
わたしのスケッチブック
- ボランティア便利 / 水族館スクールレポート
- アクアインフォメーション

ニューズレター さかななか Vol.102 2019年 SUMMER
発行 / 公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋港区港町1番3号 TEL.052-654-7080
URL http://www.nagoyaaqua.jp
本誌の掲載記事・写真等の無断複製・複製転載を禁じます。

名古屋港水族館のウミガメ回遊水槽は、開館当初からウミガメの繁殖を目的に建設されました。1995年に世界で初めて屋内施設におけるアカウミガメの繁殖に成功して以来、ほぼ毎年繁殖し、これまでに産卵したほかのウミガメ（アオウミガメ、タイマイ）も合わせた産卵数は約18,500個、ふ化した子ガメの数は約10,000匹（ふ化率約54%）になります。

ウミガメの繁殖を支えた水槽は、開館から25年がたち、骨組みやガラス、擬岩（作り物の岩）などに多くの経年劣化が見られるようになりました。そこで2017年12月から約16か月の期間を要した大規模な改修工事を行い、このたび、2019年3月28日にリニューアルオープンしました。

▶ 良い所はそのまま

従来のウミガメ回遊水槽には大きな特徴が2つありました。1つ目は、ウミガメが壁にぶつかることなく泳ぎ続けられるドーナツ型の構造、2つ目は水槽の横に人工砂浜（奥行き：20m、幅：5m、砂の厚さ：1～1.5m）が設置されていて、野生下と同様にウミガメが上陸して産卵できたことです。これらの飼育環境はウミガメの繁殖に適したものでした。そのため、この2点はリニューアル後も変えませんでした。

3階から見たリニューアルしたウミガメ回遊水槽。水槽の真ん中には島があり、ドーナツ型をしています。人工砂浜（写真右上）が隣接しており、ウミガメが自由に上陸できるようになっています。



岩のくぼみで休息するタイマイ。



赤羽根海岸から約60tの砂を運び入れました。

ウミガメの休息場所

従来の水槽内にあった擬岩のくぼみでは、よくウミガメたちが休息していました。とくにタイマイは狭いすき間を好むようで、体がフィットする人気のスポットが奪い合いになることがありました。今回のリニューアルでは、ウミガメたちの休息場所の奪い合いが起きないように、あらかじめウミガメの体にフィットするような岩のくぼみを水槽のところに造りました。

砂の入れ替え

ウミガメが産卵する人工砂浜には、これまで川砂が敷かれていました。ここでたくさんのカメが産卵したのですが、今回は実際にウミガメが産卵にやってくる、愛知県田原市にある赤羽根海岸の砂に入れ替えました。これにより、さらに自然に近い環境で産卵することができるようにしました。

▶ 今回の改良点

今回のリニューアルで大きく変わったところが3つあります。

ガラスを大きく、より見やすく

従来の水槽は、2階から水中のウミガメが観察でき、3階からは水面を見ることができました。しかし、2・3階とも床から60～70cmの高さの壁があり、小さなお子様や車いすを利用している方には少々見にくくなっていました。リニューアルでこの壁をなくし、2階の水中観覧面は透明度の高い特別なガラスを使用し、高さ1.5mだったのを2mに、3階はすべてガラスにし、より広い範囲が観察できるようになりました。



2階水中観覧面。
上)リニューアル前。床上に壁がありました。
下)リニューアル後。ガラスが広くなり、見やすくなりました。

特集

ウミガメ回遊水槽 リニューアルオープン

……飼育展示第一課 安藤 友佑



▶ ウミガメフィーディングタイム（給餌解説）をより参加型イベントに

フィーディングタイムでは、ウミガメたちを健康に飼育するため、飼育係が一頭ずつ見分けて、それぞれに適した量のえさ（魚や野菜）を与えています。

一新したイベントでは、これまでの内容に加え、お客様にもウミガメにえさ（魚）を与える体験をしてもらえるようにしました。ねらったカメの周りに他のウミガメがいないか確認した上で、顔の前方50～100cm先にえさを投げるのがコツです。実は飼育係にとっても難しいのですが、お客様にも体験してもらおうと企画しました。イベント中の三択クイズに正解すると体験できるかもしれません。南館3階ウミガメ回遊水槽で行っておりますので、ぜひご参加ください。



【ウミガメフィーディングタイム】の様子。

飼育展示しているウミガメたち

アカウミガメ

甲羅が赤茶色で、大きな頭をしています。館内でもっともたくさん卵を産んでいます。



アオウミガメ

甲羅が黒や白のまだら模様で、小さな頭をしています。水槽内では大型のカメです。



タイマイ

甲羅が茶色で、縁がギザギザしています。水中の岩のすき間を好むようで、よく狭まりながら休んでいます。





全世界からベルーガの研究者たちが集まりました。

国際ベルーガワークショップ に参加しました

2019年3月12日～14日、米国ミスティック水族館で開催された「第2回国際ベルーガワークショップ」に参加しました。世界中の研究者、水族館関係者、先住民(イヌイト)、そして政府関係者ら、約130名が集結しました。2007年にスペインでの第1回ワークショップから久しぶりの開催となりました。3日間のワークショップは、総会、ベルーガの行動や生態、水族館の飼育・科学と教育、先住民に伝わる知識の研究への応用、ポスタープレゼンテーション、ベルーガ保全、という6つのセッションに分かれ、多岐に渡ったものでした。

私が一番興味を持った発表は、アラスカの海岸にベルーガの子供が漂着し、保護施設や北米の水族館が協力して診断・治療・チューブによる給餌などを日夜通して行い、無事助かったという報告でした。漂着したベルーガの子供が助かる確率は低く、かわった人々の情熱と努力、協力が感じられ、発表後は出席者から自然と拍手がわき起こりました。

飼育展示第二課 阿久根 雄一郎

特別展「寿司ネタ大集合 ～水族館が斬る! 寿司の いろいろ～」を開催しました

2019年3月16日から6月2日まで開催した特別展は日常生活での身近な関心事である「食べ物」と「展示生物」を結びつけた内容で、日本の食文化の象徴ともいえる「寿司」をテーマに、寿司ネタとなる生物を飼育係の目線で紹介しました。

マダイやシマアジが泳ぐ水槽の前にはそれぞれの握り寿司の食品サンプルを展示し、ふだん食べている握り寿司と、ネタとなる生き物の泳ぐ姿がすぐに見ることができる展示レイアウトにしました。また、ふだんは食用としないユムシやマヒトデなど、水族館ならではの生物をネタに使った創作寿司を紹介するなど、来館者が見ていて飽きない展開にしました。

一般的なイメージとして「水族館」と「寿司」がミスマッチなのか、今回の特別展は多くのお客様にとって強く印象に残ったように感じています。ふだん食べている寿司と、生きている魚を合わせて展示することで、「命を頂いている」ということを実感してもらえたら、今回の特別展は大成功だったと思います。

飼育展示第一課 森 昌範



寿司カウンターをイメージした展示レイアウトです。



南極の雰囲気を感じられる内装に生まれ変わりました。

「南極の海」を リニューアルしました

2019年3月23日、南館3階「南極の海」をリニューアルオープンしました。南極大陸の写真や氷を模した装飾で一層南極の雰囲気を感じられるようにしました。また、7台のモニターと4台のプロジェクターを設置し、映像や画像を通して南極の生物や、名古屋港水族館が行った南極での生物収集、飼育の実績について分かりやすく紹介しています。

3月20日には南極の昭和基地から2種の魚、そして3月22日には水産庁漁業調査船「開洋丸」よりナンキョクオキアミが新たにやってきました。いずれも水を汚さないように2か月以上絶食させて運びました。到着時には、特に魚が痩せてしまっていたが、水槽に入るとすぐに元気に泳ぎだしました。現在は徐々に給餌量を増やしながら、夏からの展示に向けて体力をつけているところです。

新しくなった「南極の海」コーナーで地球最後の秘境とも言われる南極の海にすむ生物をぜひご覧ください。

飼育展示第一課 松田 乾

当館初! 人工授精で 生まれたバンドウイルカが 1歳になりました

月日が経つのは早いもので昨年5月17日に「ハル」が生まれてもう1年が経ちました。

ハルは名古屋港水族館で人工授精により初めて生まれたバンドウイルカです。生まれた時の体長は120cm、体重は18kg(どちらも推定)でしたが、1歳になり体長203.5cm、体重102.7kgに成長しました。

2018年8月24日(生後99日)に初めてキュウリウオを食べ、今ではサバやニシンなどを1日に2kgも食べてぐんぐん成長中です。

1歳を記念して、誕生時と1歳時の等身大パネルをハルのいる水槽の横に展示しました。等身大パネルを作りながら「1年でこんなに大きくなったんだなあ・・・」と感慨深い気持ちになりました。皆さんも等身大パネルの前に立ってぜひ背比べをしてみてください。

最近のハルは1歳年上のハッピーやほかのイルカたちと一緒に泳いだり、プールサイドを歩くトレーナーの後をついてきたりという姿を見せてくれます。

元気いっぱいな「ハル」に会いに来てください。

飼育展示第二課 横田 匠他



おもちゃで遊ぶハル。押ししたり沈めたり、いつも楽しそうに遊んでいます。



このコーナーでは名古屋港水族館で行なわれている保護・研究活動の成果を発表していきます。

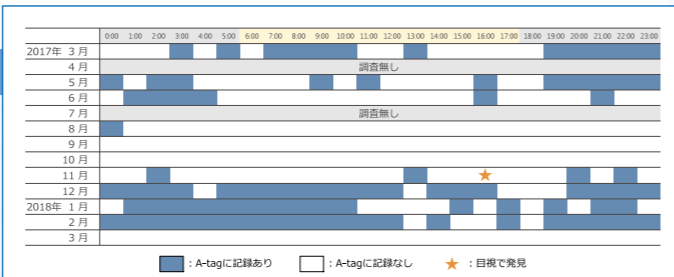
名古屋港スナメリプロジェクト

飼育展示第三課 大島 由貴

名古屋港水族館が2011年から2014年までに行った目視調査で、名古屋港にスナメリが冬に多く来遊していることが分かってきました。スナメリは絶滅のおそれがあり、保護の対象に指定されています。そこで、名古屋港に來遊するスナメリの生態をより詳細に調べ、保護に役立てていくために、2017年から東海大学、京都大学と共同で調査を開始しました。

スナメリは体が小さい、体色が灰色で目立たない、シャチやバンドウイルカなどと違って背ビレがない、群れも比較的小さいといった理由から、発見することがとても難しい動物です。そのため、目視調査ではスナメリが港内にいても見逃してしまっている可能性があります。そこで、A-tagという音響記録計を用いた調査を開始しました。A-tagはスナメリがえさを探するときなどに発する鳴き声(クリック音)が、いつ、どこから聞こえてきたかなどを記録します。これをパソコンで解析すると、姿が実際に見えなくても、何時に何頭のスナメリがどちらから来て、どちらへ泳いで行ったかがわかります。

2017年3月から2018年3月まで、名古屋港内の潮見埠頭に毎月2日間A-tagを設置した結果を表に示します。期間中に目視では1回しかスナメリを発見できませんでしたが、A-tagにはスナメリの頻繁な来遊が記録されていました。スナメリの来遊は冬に多く、過去の目視調査を裏付ける結果が得られました。

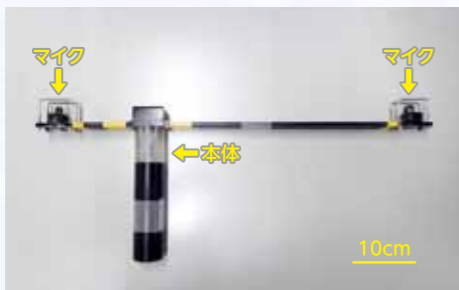


潮見埠頭の調査結果。8月から10月まではスナメリの鳴き声がほとんど記録されていませんが、12月から2月までは頻りに記録されていました。

2018年10月からは名古屋港の出入り口である高潮防波堤に常時A-tagを設置してスナメリが名古屋港内を出入りする時期や、その頭数を調査しています。こちらは現在調査中ですので、結果を楽しみにお待ちください。また、この調査中(2019年1月から4月)にスナメリとしては珍しく、目視で50頭以上の大きな群れを発見することもありました。世界有数の国際貿易港であり、大きな船がたくさん往来する名古屋港は、私たちの生活だけではなく、スナメリにとっても重要な場所なのかもしれません。



スナメリ *Neophocaena asiaorientalis*
日本、韓国、中国などの沿岸域に生息しているイルカの仲間です。伊勢湾、三河湾にはおよそ3000頭が生息しています。



調査に使用しているA-tag。水中に設置し、両端に付いているマイクでスナメリの鳴き声を記録します。



ボランティア便り 私の館内おすすめポイント

ボランティア 伸 正文

南館3階

「南極ホール」ナンキョクオキアミ

え〜エビじゃないの? と思ってしまう見た目の「ナンキョクオキアミ」は、神が遣わした最高のごちそう! 彼らは地球上の生物で生物量(生物の重さ)が最大と言われ、シロナガスクジラやペンギンなどに、どんだけ〜(使い方が違う)食べられても途絶えることなく、南極の生態系の維持に貢献しているんだって。そんな「生きている」ナンキョクオキアミたちに会えるのは名古屋港水族館だけ。南極ホールにボランティアがいたら話を聞いてみてくださいね。

今年3月にリニューアルした南極ホール。水族館で繁殖させたナンキョクオキアミを展示していますが、よく見ると体の一部が光っているところが観察できます。



水族館スクールレポート

第2回 平成30年度名古屋港水族館共同研究講演会

海洋生物研究センター 渡辺 格郎



3月9日に79名の方が参加して講演会が行われました。講演会では「伊勢湾のスナメリ 私たちに身近なイルカの暮らし」と題し、三重大学大学院生物資源学研究所の吉岡基教授にお話しいただきました。吉岡先生は鯨類の繁殖研究が専門で、名古屋港水族館が飼育している全ての鯨類について、2003年から共同研究を行なっています。

講演では、絶滅危惧種のスナメリについて、先生の調査研究フィールドの伊勢湾と三河湾を中心に、その生活や現状などを紹介していただきました。

先生の長期にわたる研究や経験を基にしたお話では、スナメリの生息数や分布、繁殖・成長・寿命などの生活史や、海岸に漂着したスナメリの調査、漁船・飛行機を用いた目視調査から解明する過程や結果、水中マイクで記録されたスナメリの音声から生息数を推定する最新の調査方法など多岐に渡るものでした。

現在では、伊勢湾と三河湾のスナメリを調査するため、三重大学が中心となり、三重県や愛知県の水産館や博物館と共同で調査ネットワークを作り、より多くの精

度の高い情報収集を行なっています。スナメリの研究には漂着などの情報が大変重要で、参加者にもスナメリの発見情報を提供してほしいとお話もありました。

講演終了後には、多くの参加者が身近な名古屋港でスナメリを見ることができていることに驚く一方で、コンビナートや国際空港があり、人間活動が活発な伊勢湾と三河湾で生活しているスナメリが、これからも元気でいてほしいと感じたと思います。

講演会が終了した後も、参加者が質問のために吉岡先生を取り囲み、活発な意見交換が行なわれていました。

日本には東北から九州沿岸に5つの遺伝的に異なるスナメリが生息し、伊勢湾と三河湾のグループはその中の一つです。



スナメリの頭骨や歯などの標本も展示され、参加者の興味は尽きることがありませんでした。講演会が終了しても多くの人が吉岡先生を囲み、スナメリの話に大変盛り上がっていました。

わたしのスケッチブック

飼育展示第三課 大島 由貴

【ウミヘビ】

高三の夏、生物学を勉強したいと考えた私は進路に迷っていました。海と陸のどちらを採るか。ロマンあふれる深海、ヘビにも興味がある。海…ヘビ…。うみ、へび? 海には「ウミヘビ」がいるじゃないか! ということで進路が決まり、こうして水族館で働いています。いつか海で彼らに出会ったら、「ありがとう」と伝えたいと思っています。



セウロウミヘビ *Hydrophis platurus* 沖合で生活しており、まれに出食えない種も存在です。
ヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* 沿岸で生活しており、沖縄まで行けばよく見られます。